



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社 朝日ラバー
コード番号 5162 URL <https://www.asahi-rubber.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 陽一郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 堀 信幸

TEL 048-650-6051

四半期報告書提出予定日 2023年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,470	3.6	212	18.1	218	17.2	171	15.2
2022年3月期第3四半期	5,279	14.9	258		263		201	598.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 319百万円 (17.8%) 2022年3月期第3四半期 270百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	37.73	
2022年3月期第3四半期	44.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	9,885	4,904	49.6	1,081.07
2022年3月期	9,720	4,676	48.1	1,030.86

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,904百万円 2022年3月期 4,676百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		10.00		10.00	20.00
2023年3月期		10.00			
2023年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,127	1.5	185	36.5	190	39.3	147	38.3	32.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	4,618,520 株	2022年3月期	4,618,520 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	82,157 株	2022年3月期	82,157 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	4,536,363 株	2022年3月期3Q	4,536,363 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、上記予想値と異なる場合があります。

なお、上記予想値に関する事項は添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する注記	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは「私たちは人を豊かにしてグローバル社会貢献度が高い技術会社になる」ことを未来に通ずる姿とし、2030年を見据えた「AR-2030VISION」を定めております。当連結会計年度は「AR-2030VISION」の実現に向けて2020年4月からスタートした第13次三ヵ年中期経営計画の最終年度になります。中期経営方針として「誠実で機敏な対応力で岩盤を築き質的に成長する」を掲げ、「お客様の期待」に素早く応えて「多くの信頼」が得られる行動や、「ステークホルダーとの絆」を強くする行動を活発に実践し、経験と実績を繰り返し積み上げながら質を高めて、グローバルな経済環境のもとで持続的な成長を果たしてまいります。

当社グループの重点事業分野を「光学事業」、「医療・ライフサイエンス事業」、「機能事業」、「通信事業」の4つとし、事業展開を進めるうえで、独自の競争力の源泉となるコア技術である「色と光のコントロール技術」「素材変性技術」「表面改質およびマイクロ加工技術」に、それぞれの事業分野に成長のキーワードとなる視点を加えて、ゴムが有する無限の可能性をさらに進化させる活動を進めております。医療・ライフサイエンス事業では、2022年7月に医療機器の国際規格であるISO13485（医療機器-品質マネジメントシステム）の認証を取得したことで海外のお客様と評価活動が開始されました。安心・安全なものづくり環境構築と法令順守を最優先とした品質管理体制を構築して事業拡大を加速させてまいります。機能事業の再生可能エネルギー分野では、令和4年度福島県における再生可能エネルギーの導入促進のための支援事業費補助金（再生可能エネルギー事業化実証研究支援事業）に採択され、風力発電性能を高める製品の実機評価活動に拍車がかかっています。風力O&M（オペレーション&メンテナンス）事業体制の構築に向けて人材育成に力点を置いた活動も注力しております。

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続くものの、経済活動は緩やかな回復傾向が続きました。一方、急激な為替変動、エネルギー資源や物価の高騰などが事業活動に様々な影響を与えました。この中で当社グループは、当期経営方針に「みんなにうれしさをお届けしよう」を掲げ、お客様の要望に素早く応える計画的な生産活動や事業の魅力を高めて貢献する機会を増やす活動を展開し、各重点事業分野への施策遂行を積極的に進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、連結売上高は医療・衛生用ゴム事業の販売が増加したことから連結売上高は54億7千万円（前年同期比3.6%増）となりました。利益面においてはエネルギーコストの増加、営業活動の販売力と技術サービス力向上を推進した人員強化による販管費増加により連結営業利益は2億1千2百万円（前年同期比18.1%減）、連結経常利益は2億1千8百万円（前年同期比17.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億7千1百万円（前年同期比15.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

工業用ゴム事業

工業用ゴム事業では、経済情勢や部品調達不安などによる自動車メーカーの減産影響を受け、ASA COLOR LED製品など車載用ゴム製品の売上高は減少しました。一方、RFIDタグ用ゴム製品は第2四半期より引き続き受注は回復傾向となりました。また、卓球ラケット用ラバーは前連結会計年度から好調が続き売上高は増加しました。

この結果、工業用ゴム事業の連結売上高は44億8百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。一方、セグメント利益はエネルギーコストの増加、営業活動の販売力と技術サービス力向上を推進した人員強化による販管費増加により3億5千7百万円（前年同四半期比19.5%減）となりました。

医療・衛生用ゴム事業

医療・衛生用ゴム事業では、通常の医療活動が回復傾向にあることから在庫調整の緩和が進み、引き続きプレフィルドシリンジガセット製品や採血用・薬液混注用ゴム栓の売上高が増加しました。

この結果、医療・衛生用ゴム事業の連結売上高は10億6千2百万円（前年同四半期比20.2%増）となりました。セグメント利益は1億4百万円（前年同四半期比61.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて1億6千5百万円増加し、98億8千5百万円となりました。その主な要因は、売上債権が増加したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べて6千2百万円減少し、49億8千1百万円となりました。その主な要因は、短期借入金の増加があったものの、約定返済による1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の減少によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて2億2千7百万円増加し、49億4百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金及び為替換算調整勘定の増加によるものであります。

また、当社グループでは各事業の受注状況に基づき、生産能力を検討し設備投資を実施、また新たな事業分野への研究開発投資を積極的に実施しております。その必要資金については財政状態の良化を鑑みながら、主に売上代金及び金融機関からの借入金による調達を基本としております。

なお、当第3四半期連結会計期間末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は22億7千8百万円と

なっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,427,754	2,330,213
受取手形及び売掛金	1,537,940	1,730,565
電子記録債権	229,917	243,199
商品及び製品	492,520	526,697
仕掛品	398,292	366,173
原材料及び貯蔵品	234,703	282,026
その他	57,953	67,383
貸倒引当金	△1,453	△1,608
流動資産合計	5,377,628	5,544,651
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,202,879	1,168,871
機械装置及び運搬具（純額）	1,200,017	1,200,692
土地	864,643	864,643
その他（純額）	166,742	174,345
有形固定資産合計	3,434,283	3,408,552
無形固定資産	75,775	67,954
投資その他の資産		
その他	832,937	865,161
貸倒引当金	△440	△440
投資その他の資産合計	832,497	864,721
固定資産合計	4,342,556	4,341,229
資産合計	9,720,184	9,885,880
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	337,613	324,480
電子記録債務	705,494	613,615
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	955,105	880,373
未払法人税等	47,157	18,023
災害損失引当金	7,394	—
その他	473,418	669,672
流動負債合計	2,526,182	2,606,165
固定負債		
長期借入金	1,471,970	1,295,999
役員株式給付引当金	11,399	15,558
退職給付に係る負債	971,084	1,001,849
その他	63,212	62,201
固定負債合計	2,517,665	2,375,608
負債合計	5,043,848	4,981,773

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	516,870	516,870
資本剰余金	465,112	465,112
利益剰余金	3,591,459	3,671,317
自己株式	△54,801	△54,801
株主資本合計	4,518,640	4,598,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,872	73,845
為替換算調整勘定	98,063	229,121
退職給付に係る調整累計額	2,759	2,642
その他の包括利益累計額合計	157,695	305,609
純資産合計	4,676,335	4,904,107
負債純資産合計	9,720,184	9,885,880

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 （四半期連結損益計算書）
 （第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）
売上高	5,279,693	5,470,960
売上原価	3,985,910	4,105,926
売上総利益	1,293,782	1,365,033
販売費及び一般管理費	1,034,881	1,152,981
営業利益	258,900	212,051
営業外収益		
受取利息	238	282
受取配当金	5,631	6,497
作業くず売却益	4,129	4,787
雑収入	10,037	11,410
営業外収益合計	20,036	22,977
営業外費用		
支払利息	6,369	5,494
為替差損	7,041	8,722
雑支出	2,259	2,706
営業外費用合計	15,670	16,924
経常利益	263,266	218,105
特別利益		
固定資産売却益	873	1,035
受取保険金	—	9,800
特別利益合計	873	10,836
特別損失		
固定資産売却損	136	—
固定資産除却損	2,176	1,824
特別損失合計	2,313	1,824
税金等調整前四半期純利益	261,826	227,117
法人税等	60,036	55,950
四半期純利益	201,790	171,167
親会社株主に帰属する四半期純利益	201,790	171,167

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	201,790	171,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,396	16,972
為替換算調整勘定	63,713	131,057
退職給付に係る調整額	899	△117
その他の包括利益合計	69,009	147,913
四半期包括利益	270,799	319,080
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270,799	319,080

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日至2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	3,334,263	669,289	4,003,553
アジア	964,566	215,233	1,179,800
北米	86,296	25	86,322
ヨーロッパ	10,017	—	10,017
その他	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	4,395,144	884,548	5,279,693
その他収益	—	—	—
外部顧客への売上高	4,395,144	884,548	5,279,693
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,395,144	884,548	5,279,693
セグメント利益	444,000	64,880	508,880

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	508,880
全社費用（注）	△249,980
四半期連結損益計算書の営業利益	258,900

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	3,365,132	750,301	4,115,434
アジア	945,966	312,492	1,258,458
北米	88,558	21	88,580
ヨーロッパ	8,486	—	8,486
その他	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	4,408,144	1,062,815	5,470,960
その他収益	—	—	—
外部顧客への売上高	4,408,144	1,062,815	5,470,960
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	4,408,144	1,062,815	5,470,960
セグメント利益	357,313	104,877	462,191

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	462,191
全社費用（注）	△250,139
四半期連結損益計算書の営業利益	212,051

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。